

要旨

SSE 会長からの挨拶 (英文のみ) (*J. Intl. Soc. life Info. Sci. Vol.38, No.2, p.120*)

2020 Presidential Address from Society for Scientific Exploration (SSE) to *International Society of Life Information Science (ISLIS)*

William BENGSTON, *Ph.D.*

President, Society for Scientific Exploration (SSE)

Editorial by Paul E. CIZDZIEL, SSE Japan Chapter (Chair)

Abstract: The Society for Scientific Exploration (SSE) congratulate the ***International Society of Life Information Science (ISLIS)*** on 25 years of outstanding science. Happy 25th Anniversary! The study of scientific anomalies has made constant progress in research and recognition in recent years. Acceptance has intensified in the general population and increasingly penetrated the minds of many mainstream researchers; especially younger professionals. Inter-disciplinary collaborations and societies like the SSE are helping to drive discovery and understanding. A shift is occurring from validating that anomalies are real; to second-order exploration of mechanisms.

Keywords: Society for Scientific Exploration, SSE, ***International Society of Life Information Science, ISLIS***, anomalies, psychic, non-locality, healing, consciousness

巻頭言 (*J. Intl. Soc. life Info. Sci. Vol.38, No.2, p.121*)

いざ、いのちの場へ

帯津 良一 医師・医学博士

帯津三敬病院 名誉院長, 国際生命情報科学会(***ISLIS***) 特別評議員

日本ホリスティック医学協会 名誉会長, 日本ホメオパシー医学会 会長

サトルエネルギー学会 会長

要旨: 医療も養生も目指すはいのちの場。生きとし生けるもの、生老病死を通じて、日々ナイスエイジングを果たしていき、いつの日か生と死を統合するのがホリスティック医学の究極です。

キーワード: ホリスティック医学, 場の医学, 個性的戦略, 代替療法, 養生, 生命場, ナイスエイジング, 生と死の統合

理事長講演 (*J. Intl. Soc. life Info. Sci. Vol.38, No.2, p.126*)

2020 年国際生命情報科学会(*ISLIS***) 創立 25 周年記念世界一の「潜在能力科学研究所」の創立へ向け本部ビルの新築中**

山本 幹男 博士(医学), 博士(工学)

国際生命情報科学会 (***ISLIS***) 理事長・編集委員長¹

国際総合研究機構 (***IRI***) 理事長², 「潜在能力科学研究所」 創立責任者²

要旨：国際生命情報科学会 (*ISLIS*) は 2020 年を創立 25 周年記念年間と定め、第 49 回と第 50 回生命情報科学シンポジウム(学術大会等)の集会を主催予定であったが、いずれも新型コロナウイルスの感染予防のため集会は中止し「学会誌上開催発表」に切り替えた。しかし下記の大きな飛躍のための *ISLIS* 創立 25 周年記念出版として、単行本「潜在能力の科学 II」の発行は 12 月に行う。*ISLIS* は、その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げってきた国際総合研究機構 (*IRI*) と共に、(仮称) *IRI* -「潜在能力科学研究所」を創立し、この分野の世界一の研究所に育てる計画なので、企画、構想、連携、研究者や多方面の人材の推薦等で記念行事と共に皆様のご協力を得たい。このために現本部にスペースを既に借増し、*IRI* スタッフの増員公募も進めている。また、千葉市稲毛の現本部と同じ駅 JR 総武線 稲毛駅 徒歩 5 分に確保済みの土地に、2021 年夏竣工を目指し新本部ビル建設を開始した。これには予め計画の「いやしのビル」の第一歩としての一部機能も持たせる。*ISLIS* の設立趣意は、物質中心の科学技術から、こころや精神を含んだ 21 世紀の科学技術へのパラダイム・シフト(枠組革新)を通じ、真理の追究と共に、人間の「潜在能力」の開花により、健康、福祉、教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ、自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である。*ISLIS* は 1995 年の創立来 24 年半、現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なこころや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング、気功、潜在能力、超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た。この間に生命情報科学シンポジウムを、海外での開催や合宿形式を含め 50 回主催し、英文と和訳付の国際学会誌 *Journal of International Society of Life Information Science* (*J. Intl. Soc. Life Info. Sci. or Journal of ISLIS*) を年 2 号定期刊行し、総計 6,000 頁以上の学術論文と発表を掲載し続けてきた。また 2002 年に単行本「潜在能力の科学」も出版した。この間に、不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた。しかし、その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない。本学会は現在、世界の 11 カ所に情報センターを、15 カ国以上に約 180 人の会員を、擁している。2021 年 3 月 13・14 日(土・日)には東邦大学医学部にて第 51 回シンポジウムを計画し、演題募集中である。これらの場でも、上記「潜在能力科学研究所」創りも皆で大いに議論してもらいたい。

キーワード：国際生命情報科学会, *ISLIS*, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, *IRI*, いやしのビル, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, 世界像, 世界観, 超常現象, 超能力, 超心理, 幸福

特別講演 (*J. Intl. Soc. life Info. Sci. Vol.38, No.2, p.130*)

ピラミッドパワーの科学的解明 I

高木 治¹、坂本 政道²、世一 秀雄¹、河野 貴美子¹、山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(*IRI*)

² ㈱アクアヴィジョン・アカデミー

要旨：本研究は、2007 年 10 月から現在(2020 年 9 月)までの 13 年間、国際総合研究機構(International Research Institute: *IRI*) で継続して行われている。研究の目的は、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: *PS*) の未知なる機能(いわゆる「ピラミッドパワー」)の科学的な解明である。本研究迄、*PS* の未知なる機能に関して、統計的に有意な結果を得たという報告はほとんど無かった。我々は実験のため、被験者が中に入ることが可能な *PS* を作製した。また、*PS* の未知なる機能を検出するため、食用キュウリ切片(*Cucumis sativus* ‘white spine type’) をバイオセンサとして使用した。バイオセンサは *PS* 頂点に置かれ、放出されたガス濃度を解析することによって、*PS* 頂点付近のピラミッド効果の検出実験が行われた。ピラミッド効果の検出実験に関しては、実験条件が異なる 2 種類の実験が行われた。それは、(i) *PS* に対して、被験者による何らかの影響が考えられる状態で行われた実験、(ii) *PS* に対して、被験者による影響が除外された状態で行われた実験、の 2 種類であった。また条件(i)

の実験は、PS に対する被験者による影響が、3 タイプあると考えられた。それは、(i-1) PS から 6 km 以上離れた被験者の無意識（フォースタイプ I）が PS に影響している場合、(i-2) PS 内部で瞑想中の被験者の状態（フォースタイプ II）が PS に影響している場合、(i-3) PS 内部で瞑想した被験者が居なくなった後、フォースタイプ II に対する PS の反応が継続している場合、の 3 タイプであった。条件(ii) の実験は、少なくとも 20 日間以上、被験者が PS 内部に入らなかった状況で行なわれた。(i-1), (i-3) 及び(ii) の結果から、PS の未知なる機能（「ピラミッドパワー」）の存在が、高い統計精度で実証された。(i-1) の結果からは、6 km 以上離れた被験者の睡眠状態から覚醒状態までの、無意識の変化に対応したと考えられるピラミッド効果が検出された（1%有意）。(i-3) の結果からは、瞑想後十数日間にわたり、遅延を伴ったピラミッド効果が発見された（ $p=3.5 \times 10^{-6}$ ；ウェルチの両側 t 検定、これ以降の p 値も同様）。この遅延を伴ったピラミッド効果は、過渡応答現象のモデルから計算された理論曲線によって非常に良く近似できた。これに対して、(i-2) の結果からは、これまでのところピラミッド効果が有意に検出されなかった。しかし今後、データ数が増えることによって PS 内部で被験者が瞑想中のピラミッド効果が検出される可能性が十分に考えられる。(ii) の結果からは、PS が潜在的に持っている力（パワー）によるピラミッド効果が検出（ $p=6.0 \times 10^{-3}$ ）された。さらに、PS 頂点に 2 段に重ねて置かれたバイオセンサの、上段と下段に対する潜在的なピラミッド効果が異なり、下段に比べて上段のバイオセンサに対するピラミッド効果が大きくなることが明らかとなった（ $p=4.0 \times 10^{-7}$ ）。厳密な科学的な実験と解析によって得られたこれまでの結果は、いわゆる「ピラミッドパワー」の存在を実証した世界最初の研究成果である。この成果が科学の新しい一分野を切り開き、幅広い応用分野の発展に寄与することが期待される。

キーワード：ピラミッド、瞑想、無意識、潜在、遅延、バイオセンサ、キュウリ、ガス、サイ指数